



## 暗記と紙の辞書 その2

昨日の通信で、英語が今一つな人は紙の辞書を使うべきだと書いたが、これは古典にもいえる。古典が不得意な人は、紙の古語辞書と漢和辞書を買うべきだ。塾や予備校に通うことを考えれば、極めて少額な投資である。早めに手に入れて、2年が終わるまで徹底的に使えば、しっかり元は取れるし、成績の向上も望める。早く買いなさい！

同時に、暗記の重要性も再度強調しておきたい。極端な話、数学が不得意な人は、スタンダードの問題の解き方（「答」ではない）を全部暗記すればイイのである。邪道のように思えるかも知れないが、暗記することによって見えてくることもあるのである。

我々が日常生活でなに不自由なく日本語を活用できているのは、何も文法の理論を知っているからではなく、日本語をマルマル暗記しているからであることを思い出そう。だから、極論すれば、英語なんてマルマル暗記すれば、誰でも使いこなせるようになるし、古文・漢文も、教材をマルマル暗記すれば、次の教材が分かるようになるのである。

＊

暗記をバカにする人は多い。例えば、PISAなどという国際試験の結果に踊らされて、思考力や表現力をつけることが必要だなどと言っている学者がいる。間違っていないが、思考するために必要なものは何なのか、表現するために必要なものは何なのかを、もう一度考えてみるべきであろう。

我々がものを考えることが出来たり、表現

することができたりするのは、それに足るだけのものが、自分の内側に存在するからである。いや、例えば、グラフを見て分析するといった問題では、グラフは与えられるのだから、前もって暗記していることなど、何も必要ないのではないかと思うかも知れないが、どんな点に注目し、どんな論点を見つけ、どんな論理を展開するのかといったことは、前もって自分の中に出来上がっている「ものの見方」に依存するのである。そして、そのような「ものの見方」は、色々な学習を通して、様々なことを身につける＝暗記することによって、自然と知識がネットワーク化して活用できるようになるものなのである。

＊

繰り返すが、暗記した「知識」があればこそ考えることができることを忘れてはならない。その知識のストックが少なければ、当然のことながら思考は浅くなる。多くの言葉を知っていれば、それだけ思考を深めることが可能となるのも同じである。すべてを「カワイイ～♪」だけで済ませる人間と、「上品でシンプルな色使いの装いが、あの老婆の柔らかな人柄にふさわしく可憐に見える」と表現出来る人間とでは、やはり生きている世界が違うと言うべきだろう。

今は知識をたくさん貯める＝暗記すべき時である。たくさん貯めることができた人は、大学へ行って、あるいは社会に出て、本当にやりたいことを深めようとする時、豊かに思考することができるようになるのである。